

下水道管路施設更新計画と東大通り拡幅状況



中山克己 (自民党小金井)

①市の下水道は数年で一般的な耐用年数の50年を迎え、計画性を持った管路施設の更新が必要と考える。市の方針と計画は、環境部長 管路施設の長寿命化を図り、計画的、効率的な改築更新が必要。平成27年度に基本計画を策定し、以後、管きよの調査、設計、施工を計画的に

②東大通り(都市計画道路3・4・11号線)の拡幅工事の進捗状況は。都市整備部長 用地取得の進捗率は64%。今年度は地蔵通りとの交差点部約78mの街路築造と電線地中化の工事に着手している。今後は用地取得も含め、事業認可期間の平成29年度末を目指して事業を進めていく。

その他、「生活保護適用後の調査と指導」来るべき人口減少社会に向けた市の方針と取組について質問・提案しました。



東京都により拡幅中の東大通り

「のみち」を分断するバリアードの移設を



湯沢綾子 (自民党小金井)

東小金井駅東側の「のみち」について、(ア)オープン後、未整備の(仮称)東小金井市政センター建設予定地を囲むバリアードが道路まで張り出しているため、歩道が分断される上に駅側から「のみち」の様子が見えなくなっている。早急な対策を。(イ)現状、向かい側は区画整理用

に働きかけてみてはどうか。都市整備部長 (ア) (仮称)東小金井市政センターの工事開始までの間、バリアードを移設し、のみちがつながるよう整備していただくことをJR東日本と協議したい。年明けにも施工できるようお願いする。

まちづくり担当部長 (イ)この場所は平成29年以降に工事を予定している。仮換地指定後は速やかに土地を有効活用していただくよう所有者にお願いする。市民部長 (ウ)回遊性向上のためにも機会を捉え話してみたい。



張り出したバリアードが視界を遮る

家庭教育支援チーム活用で不登校未然予防を



岸田正義 (市議会民主党)

①不登校児童の対応について、(ア)担任以外の相談体制は。(イ)市ホームページに相談体制の情報がなく、案内すべき。(ウ)どこにも相談できていない家庭に届けの支援が必要では。(エ)不登校の対策には未然予防が重要では。学校教育部長 (ア)スクールカウンセラーや教育相談所対応。

措置もしている。待つ支援から届ける支援のために保護者へ寄り添い、情報を伝えて家庭と地域や学校をつなげる「家庭教育支援チーム」の活用を。(ア)不登校児童への対応

②不登校の未然予防には、学校や地域の最小単位である家庭への教育支援が必要。文部科学省も教育基本法を改正して家庭教育の重要性を位置付け、財政



子どもたちが安心して登校できるために

「貫井前原」「七軒家」ココバスの充実を



板倉真也 (日本共産党)

(ア)貫井前原循環の朝の時間帯の運行実現に向けた検討状況と課題整理を、どのように考えているのか。(イ)野川・七軒家循環は、ココバスに乗れない「乗り残し」が発生している。しかも高齢者の利用が多いのが特徴である。増便に向けたスケジュー

しい状況となっている。引き続き、運行事業者等と協議を進めていきたい。(イ)車両を1台増車するとすると、現在の運行補助額にさらに1千万円程度の費用が必要となる。改善策が見いだせない状況が続いている。

認知症対策と市民成年後見人制度の拡充を



水上洋志 (日本共産党)

①認知症対策の強化について質問する。(ア)早期発見早期治療対策について、軽度者へのサービ

職員が中心となって適切な医療支援につなげるようにしたい。(ウ)今後さらに需要が増えていくと考えられ、受皿が不足する現状もある。

都道整備の順調な進捗を



遠藤百合子 (自民党小金井)

都道の順調な整備が望まれている。平成17年2月から10年間の「第2次交差点すいすいプラン」の現状を踏まえ、平成27年度から向こう10年間の推進プランについて、きちんと東京都と連動した動きをとっていただきたい。(ア)小金井市内の都道における今後の進め方は。

坂上交差点までは、用地取得が約96%となったことに伴い、街路築造工事を進めていく。連雀通りでは、東京都と委託協定を締結し、用地取得と街路築造工事を2か所で行っている。(イ)交差点すいすいプランは、東京都の事業として右折車線等の渋滞対策を目指すものである。現在までに市内で事業完了しているのは、小金井市保健センター前交差点、貫井北町一丁目交差点、前原坂上交差点、前原坂下交差点の4か所であり、ほか2か所については完了していない。